

祝 辞

宮城県における、新型コロナウイルスによる感染拡大はとどまることを知らず、大変心配しておりましたが、宮城県仙台第二高等学校における、令和三年度、第七四回卒業生に対する卒業証書授与式が、ここ講堂において、無事挙行されることとなり、胸をなで下ろしております。

栄えある今日を迎えた卒業生は、

男子一八四名、女子一二九名、合計三一三名とお聞きしております。

宮城県仙台第二高等学校同窓会を代表いたしまして卒業生の皆さんにお祝いを申し上げますと共に、一日千秋の思い出で今日を待っておられた保護者の方々に対しても衷心よりお祝い申し上げます。

世界は、時間と空間が狭まり、もうすでに、「グローバルな地球社会」となっており、政治、経済、法律、生活、文化のあらゆる領域が、互いに密接につながっております。そのため、このような地球環境の構造的変容に対応して、高度情報化社会に対応する人材養成が急務となり、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムによる、人間中心の社会を作り出そうしています。このような社会構造の変革に対応した政策、ソサエティ 5.0 (Society 5.0) が進められています。そのためには、コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシーなど、実生活に必要な

AI（人工）知能を扱う技術、それと、人文・社会科学、文化・藝術などの幅広い教養の涵養が求められています。

他方、新型コロナウイルス感染者増加は、まさに「グローバルな地球社会」そのものを、マイナスの意味で、あからさまに示す、結果でもあります。世界の累計感染者は、二月二五日現在、四億三〇二五万七五六四人、日本国内は四八九万九二〇五人、依然として地球全体を覆う勢いです。わたしたち一人ひとりが向き合わざるをえず、日本人の日常生活に響いてきております。本日のこの卒業式そのものも、「グローバルな地球社会」の網目から免れることはできないわけです。

このような昨今の「グローバルな地球社会」の進展に伴い、人間の生活と文化は一様化、均一化の方向に向かっていくのかもしれませんが、その結果、国、地域ごとに培われてきた伝承的および伝統的な生活と文化がそれぞれの個性を失い、無色、透明な状態となり、個人一人ひとりの違いがなくなってくるように思えます。このような社会環境のもとでは、人間は知らず知らずのうちに心の奥深くにある本来の「自分自身、自己」の姿を見ようとせず、その結果、「自分自身」の、氷山の一角に過ぎない、表面に見出される「自意識、自我」に頼ることになります。そうすると、短絡的に結果を求める、たとえば偏差値至上主義や、極端な拝金主義も生まれるのではないのでしょうか。このような、いわゆる自己疎外の問題を克服するには、わたしたちはどのようにこれから生きてゆけばよいのでしょうか。

歴史を振りかえれば、いつの時代、どこの地域においてもそうですが、と

くに、明治維新後の日本は、その当時の米英の指導する「グローバルな地球社会」に参加せざるをえず、あらゆる領域において、西洋化、文明開化が叫ばれた時代でした。その明治三三（一九〇〇）年、本学、すなわち宮城県第二中学校が、仙台市南町に設立されました。宮城県仙台第二高等学校は、一昨年ですが、令和二（二〇二〇）年、創立百二〇周年を迎えております。およそその歴史の半分の時期、昭和三七（一九六二）年、仙台二高に、わたくしは進学しています。「蝮^{まむし}」と揶揄された小坏洋校長時代です。小坏さんは、入学時に坊主刈りを厳命し、岩波新書「自由と規律」を引用し、イギリスにおけるパブリックスクールを例に挙げ、「かく厳格なる教育が、それによって期するところは何であるか。それは正邪の観念を明にし、正を正とし邪を邪としてはばからぬ道德的勇氣を養ひ、各人がかかる勇氣を持つところにここに始めて真の自由の保障がある所以を教えることに在ると思ふ」という訓示でありました。他方、小坏さんは、東京大学総長を務めた南原繁さんの講演も企画しました。かなりの老人の立ち振る舞いだったのですが、「人間性の確立、自主独立の精神、そして正義に基づく平和、特に国際平和」を説いていた記憶があります。仙台に戻り、さまざまな分野で活躍してきた同級生たちと歓談すると、すでに七〇代半ばですが、このような高校時代の薰陶がいまだに生かされていると感じています。

三船久蔵自筆の「文武一道」が柔道場に掲げられ、校訓となっております。「業^{ゴフ}ハ科學的研究ノ上ニ樹^タテル技術的修鍊ナリ。」學術と武術は、分かち難くしっかりと組み合った一本の道であり、心技一体となって未来へと続いていく生き方」と、解釈してみたいと思っています

この本学の校訓を胸に刻み、「自意識、自我」の奥深くに宿る本来の「自

分自身、「自己」の姿をみずからが自覚しえるようになると、個人としての主体性が発揮できるようになります。そうなれば、今後、大多数の皆さんは、大学に進学して、四年間、持続してこつこつと、各学部、各学科、各専攻に応じた環境のなかで、一人ひとりに課せられた「感覚する力と創造する力との絆」をしつかりと鍛えるのです。そして、卒業後の働くことの楽しみや自由を享受できる基盤が形成されるのではないのでしょうか。

このようにして、本来の真の自己探求を一人ひとりが実践すれば、それが束となって、多様性に満ちたエネルギーの総体が生み出されるのです。それが、新たな日本創生の原動力にもなることでしょう。日本列島という、東北という「ローカルな地域社会」と、「グローバルな地球社会」との協働による理想的な形を実現すべく、二一世紀は、卒業式に列席している皆さんをはじめとする、若人の活躍する世紀であると確信しております。

宮城県仙台第二高等学校同窓会会員一同、並びに教職員一同、皆さんのご卒業を心からお祝いし、本来の真の自己探求に励み、「ローカルな地域社会」と「グローバルな地球社会」の一員として、ハイブリッドに取り組み、成長、そして貢献なさを祈念し、祝辞といたします。

令和四年三月一日

宮城県仙台第二高等学校同窓会

会長

佐藤一郎



